



8月は梨の季節

内田 拓磁さん (35)

実家は杉戸町。菖蒲町新堀にある、後継者のいなかった梨園を引き継ぎ新規就農。持病と闘いながら、失敗を恐れず農業に取り組む。

てんかんの人たちにも働ける場を作りたい

新梢管理という作業。高いところに養分が行く習性を活かし、実がなっている枝の先端を立てて、養分を行きやすくしている。



駒崎さんの畑では、9~10月頃にサツマイモと落花生が旬を迎える。



約30年間、コンピューター関連の仕事をしてきた駒崎さんは、この4月から農業の世界に飛び込みました。そのきっかけは、奥様の一言だったと言います。

「4、5年前に『50歳になったら、夫婦で何か仕事ができたらいいね』って漠然と話をしていました。そこで妻が『農業をやってみよう』と言ったのがきっかけです。それまで全然関係ない仕事だったし、農業は全然思ってもいないことでした。」

そこから情報を集め、1年間農業大学校で農業の基礎を勉強。現在は「特別栽培」という、「従来よりも農薬や化学肥料を半分以下にする栽培方法」に挑戦しています。「作る側に回ってみたい、一番驚いたのが農薬の量。諸外国と比べても、日本は多く農薬を使っているんです。出来る限り農薬を使わずに、環境に優しい農産物を作りたいと思っています」と駒崎さんは話します。

農地の近所の方に、たくさん助けてもらっているという駒崎さん。「いつも色々教えていただいで、本当に感謝しています。今までは普通の会社員で、仕事関係の方とは関わりがありませんが、農業でこうして近所の人や地元の人と繋がることができる。これがいわゆるコミュニティなんだと実感しました」と語ります。

駒崎さんの農産物の販売場所

- ・JA騎西農産物直売所 (加須市騎西425)
- ・モラージュ菖蒲2階 わくわく広場

今後、軌道に乗れば、ゆくゆくは農地を広げ、空き家を活用して農地キャンプ場を作ってみたいと、目を輝かせます。

「まだまだ正直、不安な部分も多いですが、会社員の頃よりも歯車感がないというか、自分で全部決めて好きなようにできるので、こんなに自由にやっていると、楽しんで農業をしています。」

農業を始めてから、大きく変わったことがあると言う駒崎さん。「農業を始めてから、体重が15kgも減ったんです。農業はダイエットにも効果があるのかもしれないよ(笑)」と、笑顔で話してくれました。

サラリーマンから農家に転身。「特別栽培農産物」を多くの人に届けたい



駒崎 昌弘さん (55)

4月から、北中曾根にある農地で研修中。指導農家の指導のもと、10種類ほどの農産物を育てる。奥様からの「楽しんでわくわくしながらやりなさいね」という言葉を常に意識して農業に励んでいる。

3年前に、高校時代の先輩から声をかけられ、後継者のいなかったこの梨園を紹介されたと言う内田さん。学生時代は、農業高校、農業大学校と、農業について学び、ずっと果樹を専攻していたと言います。

「農業大学の時の実習先が、久喜の園芸試験場だったんです。そこで専門性を磨きました。卒業後は、農業生産法人や、観光農園で働いていましたが、その時に、先輩から声をかけてもらって。」

「高校時代から梨に携わっていて、食べるのも梨が一番好き。自分でやりたいと思っていた梨に携わることができて良かったんです。」

そう話す内田さんは、自分で作った梨がお客さんの手に渡り、「良かった、おもしろかった」と言われた時に、一番やりがいを感じる、と顔をほころばせます。

運転免許も持っていない時期がありました。そういう、てんかんの人たちにも、働ける場を与えてあげたいという気持ちがあった、今模索しているところです。てんかんについては、色々研究も進められているみたいなので、何か取り入れられるものはないか、自分でも情報を集めています。」と熱意を込めて語りました。

内田さんの農産物の販売場所

- ・庭先販売 (菖蒲町新堀2376)
- ・ネット販売 (「宮野梨園 久喜市」で検索)
- ・ふるさと納税

◀梨は、取材した6月下旬だとまだ小ぶり。1カ月も経たないうちに倍ほどのサイズになるそうです。

主な品種と出荷時期

	8月			9月			10月	
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
幸水	■							
彩玉				■				
豊水				■				
あきづき				■				
新高							■	

おすすめは彩玉！
大きくて甘くて私もよく食べています！



就農に関するご相談等は

農業振興課農業振興係

☎85-1111(内線337)へ